

資料 4 別紙

「廃棄物熱回収施設設置者認定マニュアル」における 発電以外の熱利用の用途について

主な用途	熱利用の形態										
タービン補機駆動	タービン補機駆動は、蒸気エネルギーを利用してタービン駆動の誘引通風機やボイラー給水ポンプを稼働させることにより、駆動用電力量の削減を図るものである。										
循環利用	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">燃烧用空気予熱器</td> <td>燃烧用空気予熱器は、蒸気熱を利用して燃烧用 1 次及び 2 次空気の温度を上昇させることにより、助燃剤の使用量の削減を図るものである。</td> </tr> <tr> <td>スートブロワ</td> <td>スートブロワは、ボイラー過熱器、節炭器（エコノマイザー）のガス側伝熱面に付着する飛灰を蒸気又は圧縮空気で吹き飛ばして除去することにより、ボイラーの効率の維持を図るものである。</td> </tr> <tr> <td>ボイラー給水加熱器</td> <td>ボイラー給水加熱器は、蒸気タービンの抽気蒸気等を利用しボイラー給水を加温することにより、ボイラーの熱回収率の向上を図るものである。</td> </tr> <tr> <td>脱気器</td> <td>脱気器は、給水中の酸素や炭酸ガス等の非凝縮性ガスを除去することにより、ボイラーの効率の維持を図るものである。</td> </tr> <tr> <td>エゼクタコンデンサ</td> <td>エゼクタコンデンサは、余剰高圧蒸気を用い、エゼクタ効果を利用してタービン排気蒸気を低圧化することにより、タービンの能力の向上を図るものである。</td> </tr> </table>	燃烧用空気予熱器	燃烧用空気予熱器は、蒸気熱を利用して燃烧用 1 次及び 2 次空気の温度を上昇させることにより、助燃剤の使用量の削減を図るものである。	スートブロワ	スートブロワは、ボイラー過熱器、節炭器（エコノマイザー）のガス側伝熱面に付着する飛灰を蒸気又は圧縮空気で吹き飛ばして除去することにより、ボイラーの効率の維持を図るものである。	ボイラー給水加熱器	ボイラー給水加熱器は、蒸気タービンの抽気蒸気等を利用しボイラー給水を加温することにより、ボイラーの熱回収率の向上を図るものである。	脱気器	脱気器は、給水中の酸素や炭酸ガス等の非凝縮性ガスを除去することにより、ボイラーの効率の維持を図るものである。	エゼクタコンデンサ	エゼクタコンデンサは、余剰高圧蒸気を用い、エゼクタ効果を利用してタービン排気蒸気を低圧化することにより、タービンの能力の向上を図るものである。
	燃烧用空気予熱器	燃烧用空気予熱器は、蒸気熱を利用して燃烧用 1 次及び 2 次空気の温度を上昇させることにより、助燃剤の使用量の削減を図るものである。									
	スートブロワ	スートブロワは、ボイラー過熱器、節炭器（エコノマイザー）のガス側伝熱面に付着する飛灰を蒸気又は圧縮空気で吹き飛ばして除去することにより、ボイラーの効率の維持を図るものである。									
	ボイラー給水加熱器	ボイラー給水加熱器は、蒸気タービンの抽気蒸気等を利用しボイラー給水を加温することにより、ボイラーの熱回収率の向上を図るものである。									
	脱気器	脱気器は、給水中の酸素や炭酸ガス等の非凝縮性ガスを除去することにより、ボイラーの効率の維持を図るものである。									
エゼクタコンデンサ	エゼクタコンデンサは、余剰高圧蒸気を用い、エゼクタ効果を利用してタービン排気蒸気を低圧化することにより、タービンの能力の向上を図るものである。										
関連施設利用	関連施設利用は、蒸気熱を、熱回収を行う焼却炉とは別の溶融炉等に供給し、空気の予熱等に利用することにより、関連施設での助燃剤の使用量の削減を図るものである。										
乾燥・濃縮等熱源利用	乾燥・濃縮等熱源利用は、蒸気を汚泥等の乾燥、濃縮等のための熱源として利用することにより、乾燥や濃縮等に必要エネルギー使用の削減を図るものである。										
給湯場の冷暖房	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">場内温水器</td> <td>場内温水器は、蒸気熱を利用し、熱回収施設で使う温水（風呂、手洗い、消雪等に利用）を製造することにより、場内のエネルギー使用量の削減を図るものである。</td> </tr> <tr> <td>場内冷暖房機器</td> <td>場内冷暖房機器は、蒸気熱を、熱回収施設での暖房（蒸気・温水）・冷房（吸収式冷凍機）の用途に用いることにより、場内のエネルギー使用量の削減を図るものである。</td> </tr> </table>	場内温水器	場内温水器は、蒸気熱を利用し、熱回収施設で使う温水（風呂、手洗い、消雪等に利用）を製造することにより、場内のエネルギー使用量の削減を図るものである。	場内冷暖房機器	場内冷暖房機器は、蒸気熱を、熱回収施設での暖房（蒸気・温水）・冷房（吸収式冷凍機）の用途に用いることにより、場内のエネルギー使用量の削減を図るものである。						
	場内温水器	場内温水器は、蒸気熱を利用し、熱回収施設で使う温水（風呂、手洗い、消雪等に利用）を製造することにより、場内のエネルギー使用量の削減を図るものである。									
場内冷暖房機器	場内冷暖房機器は、蒸気熱を、熱回収施設での暖房（蒸気・温水）・冷房（吸収式冷凍機）の用途に用いることにより、場内のエネルギー使用量の削減を図るものである。										
周辺施設利用	周辺施設利用は、廃棄物処理施設としての機能に係る用途を超えて、周辺地域へ熱エネルギーを供給することにより、地域のエネルギー使用量の削減を図るものである。例えば、温水プールや福祉施設等への給湯、農業用温室やロードヒーティング等のための熱供給のほか、オフライン方式による熱供給（トランスヒートコンテナ）などがある。										

循環利用とは、熱回収により得られる熱量が当該熱回収施設の焼却炉又はボイラーに循環して利用されるものとする。

なお、同マニュアルにおいて、白煙防止のための排ガス再加熱器と脱硝用排ガス再加熱器については、地球温暖化対策上他の手段による方法を取ることが望ましいとの理由で、熱利用用途の対象外とされている。